



令和7年 第291号

2月のほけんだより



呉市役所
こども施設課
0823-25-3144

子どもの発達に関すること

「周囲の他の子と比べたときに何か反応が違う…」、「一生懸命育てているのにうまくいかない…」と悩んでいる保護者のみなさん、一度お子さんの様子をしっかり見つめてみませんか。保護者や保育者の気づきをきっかけに、分かりやすく伝え方を工夫することで、その子が過ごしやすくなり、結果として、子どものできることや楽しめることが増えたら、とても良いことだと思います。

「発達障害」という言葉を聞いたことがありますか？



脳の機能の発達に偏りがある「発達障害」は、できごとの受け取り方が、標準的な発達（定型発達）とは異なっていることがあります。人とのコミュニケーションが苦手、相手の伝えたい意図を汲みとりにくいなどの傾向があります。そのため、わかりやすく簡潔に伝える必要があります。
発達障害は生まれつきの障害であり、子どもの生活や子育ての仕方に影響されてなるものではありません。

全年齢を通じて、気になる様子がありますか？

- おとなしくて、一人にしても平気になっている
- 「一緒に遊んでほしい」、「そばにいてほしい」という要求がない

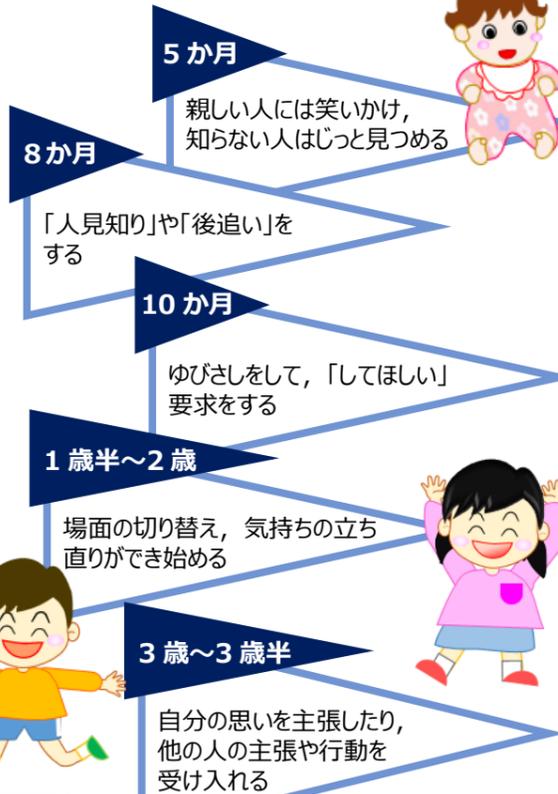
- 何をしても気に入らないことが多く、些細な事にこだわる
- 思い通りにいかないと、かたまって拒絶するか、ひどく泣いたり暴れたりする

手がかからず、とても育てやすく感じるけど、要求がないのは気になりますね…

こういう様子があると、手がかり、育てにくさを感じますね…



着目したい子どもの発達



子どもにこんな様子はありませんか？

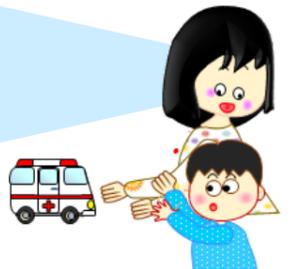
乳児期（0～1歳）の気になる様子

- あやしたり笑いかけたりしても、反応を示さない
- 睡眠のサイクルができない、安定しない
- 名前を呼んでも反応しない、視線が合いにくい
- 「わんわん」、「まんま」などの意味のある言葉がでない
- まねっこをしない、ほかの子に興味を示さない
- 特定の光や音、触られること（抱っこなど）を極端に嫌がる
- 手のひらを自分に向け、「逆さバイバイ」をすることがある



幼児期（2～3歳）の気になる様子

- 言葉が少ない、意味のある言葉がでない、周囲とのコミュニケーションが難しい
- 独り言が目立つ、テレビのセリフやフレーズを繰り返す
- 一人遊びや繰り返し同じ行動に没頭する
- 「ごっこ遊び」や「見立て遊び」が苦手である
- 外出の際に保護者から離れても、不安になる様子がない
- 手をつなぐことを嫌がり、迷子になりやすい
- 偏食が多い（食べられるものが少ない）
- 要求する時や自分の代わりにやってもらいたい時など、言葉ではなく大人の腕を引っ張って伝えようとする



幼児期（4～6歳）の気になる様子

- 新しい場所や人に慣れるのに、時間がかかる（例えば、新年度いつまで経っても登園を渋る）
- 道順やスケジュールなど「いつも通り」を好み、急な予定変更を極度に嫌い、不安がる（例えば、マイルールやこだわりがある）
- 自分の思う通りでなかった時に、ひどいかんしゃくをおこす
- 運動会や発表会などの特別な行事への参加を嫌がる
- 活動中でも教室や園庭からふらりと出て行くなど、興味がないとその場から離れる
- ほめられたり、叱られたりしても、それが行動の動機や止める動機に結びつかない
- 音に敏感で、大きな音や不快な音に対して耳をふさぐ
- 同じ肌触りや気に入った色の服や靴ばかり好む
- 危ないと注意しても聞かず、高いところから飛び降りたり、道路に飛び出したりする
- 体の動かし方が極端にぎこちない（片足飛びでバランスを崩す、両足ジャンプで足がそろわないなど、全体的な身体の動きに、ぎこちなさがある）



まずは、保健センターやかかりつけの小児科で相談を

気になる様子がある時には、保健センターでの発達相談や呉市の療育相談、かかりつけの小児科で相談することをおすすめします。

呉市では令和4年度から、5歳児発達相談が始まりました。詳しくは、令和5年のほけんだより5月号（第270号）をご参照ください。

- 西保健センター（和庄1丁目2-13）
TEL:0823-25-3542
- 東保健センター（広古新開2丁目1-3）
TEL:0823-71-9176

『療育』を紹介されることもあります

『療育』とは、子どもの発達を促すための取り組みのことを言います。早期に『療育』を開始することで、子どもの社会参加がより楽になると考えられています。

- 療育の事業所により、内容は異なりますが、
 - 運動遊び ●手指を動かす工作
 - リトミック ●水泳療育 ●構音指導
- などを通じて支援をします。

